

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス豊見城教室			公表日		令和7年 4月 30日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。				14
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		14	0	利用児童の定員数に対し、適切な職員配置をし、イレギュラー対応も可能な体制を整備している。	利用定員に応じて、適切な職員体制を継続して維持できるように努めます。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		12	2	現状、バリアフリーを必要とする児童の在籍が無く、施設的な整備は行っていないが、机の角や柱、床などに衝突防止角度パットやマットを設置するなどの対応を講じている。	今後、バリアフリーが必要とされる児童が通所される際は、スロープや手すりなどの設置を行います。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		14	0	清掃は定常業務として毎営業日に取り組み、常に清潔で過ごしやすい空間になるよう努めている。	活動の中にクリーンデイを定期的に設定し、自分たちが使用している場所を当たり前清潔に保つ意識と、意義を伝えながら価値観へのアプローチを継続的に行います。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		14	0	サービス提供時間は相談室を開放し、こどもたちが自由に使える部屋として活用している。	常に整理整頓をして使用できる状態を維持できるように努めます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		14	0	朝礼や終礼などで各々の業務を確認・進捗を把握し、全体で改善点の共有や当日のプログラムの確認を行っている。	送迎や週休の職員へ、もれなく共有するように努めます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		14	0	集計結果を職員間で共有し、会議を持ち業務改善に努めている。	業務改善を行った際は改善したことをもれなく即時保護者へ報告するように致します。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		14	0	管理者との面談が毎月設定されており、日々の困りごとや意見等、個人単位で詳細に相談出来る体制を整えている。直接代表や統括に話ができるセルフケア日が設定されている。	業務改善を行った際は改善したことをもれなく即時職員へ報告するように致します。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		14	0			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		14	0	市区町村が開催する研修やこどもプラス本部からの月に1回の研修等、積極的な参加を行っている。	研修費を拡充し、療育に必要な研修は出来る限り参加できるように体制を整えます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		14	0	事業所の職員からも意見を聞き取りし、ホームページへの掲載することで公表している。	掲載されていることの周知を各利用者へ怠らないように努めます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		14	0	個別支援会議を実施し、支援に関わる職員の意見を多角的に収集し、放課後等デイサービス計画の内容を確認・作成している。	放課後等デイサービス計画の内容について、今後も全職員への周知徹底に努めます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		14	0	個別支援会議を開催し、児童の日々の様子、活動内容を共有した後、支援に関わる職員の意見を踏まえた検討を行っている。	一定の職員の意見だけにならないように、会議の際は職員全員が忌憚のない意見を言えるような環境作りを努めます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。		14	0	日々、朝礼や終礼などを通し、計画書に則った支援内容の確認を実施して現場での実践を行っている。	支援内容が大きく変更があった場合は、当月で修正更新して計画書と実際の支援に相違が無いように努めます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		14	0	こどもプラスホールディングスから支給されているソフトやツールを用いた児童に合わせたフォーマルな支援や、HUGを使用した日々の記録と活動内容を踏まえた実践によるインフォーマルな支援を実施している。	職員のスキルの違いによって、アセスメントの内容に違いは出るが、周知共有して同じ支援ができるように努めます。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	0	本人支援はもちろん、家族支援や移行支援も最終的には、本人の成長に紐づいていることを理解したうえで具体的に内容を記載している。	個別支援会議の際に、放課後等デイサービスガイドラインを読み返しなが、定期的に必要項目が適切かどうかの確認を行っております。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	0	運動療育担当を都度変更し、職員それぞれの視点から運動療育案を作成。実施前に職員間で共有し、安全に配慮しプログラムを実施している。	今後も活動プログラムをチームで立案することを継続して行います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	月ごとに季節に合わせてイベントなどを開催し、日々の活動においてメリハリがつくよう工夫して取り組んでいる。	随時利用児童からニーズを聞きとりを行ったり、SNSなどを活用し幅広く情報収集することで活動プログラムが固定化しないように努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	個別活動と集団活動のどちらにも偏らないように、児童の要望も取り入れながら支援を行っている。	情緒的に落ち着かない児童に対しては、随時個別活動で対応しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	0	運動あそび考案書を作成し、実施前に担当職員への周知を行っている。	当日の午後までには全職員で周知できるように、職員で共有しております。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	0	朝礼・終礼を営業日は必須で実施し、児童一人ひとりの様子を共有、議事録に記録し全体で確認する事ができるようにしている。	朝礼・終礼の議事録をとり、お休みしている職員にもれなく共有できるように致します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	児童一人ひとりの活動内容を、サービス提供記録に記載し、定常業務として毎営業日に記録・終礼での共有を実施している。	記録した方が良いかどうかの判断を統一し、もれなく共有できるように努めます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	保護者、支援員、相談員を交えモニタリングを実施し、適切な見直しを行っている。	計画相談員や各関係機関の方からの情報も、事業所の職員へ共有することを怠らないよう留意します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	14	0	対象児童に合わせ、ガイドラインに則り柔軟に活動内容の選定を実施している。	本人のニーズを最大限まで反映できるように努めます。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14	0	運動プログラムを実施する際、こども達が決定出来る様、複数の活動内容を提示し、自己決定してもらうように支援を実施している。	運動遊びや児童へ支援する際は、本児に課題を伝えながら理解してもらい、自分で決めたことだからとモチベーションが継続してためるように努めています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	0	基本的には管理者や児童発達支援管理者が参加するが、保育所等訪問の担当や、日々の活動の中で関わりの深い職員を充てる等し参画している。	会議に参加する職員が他の会議と被らないようなスケジュールや、予定の取り方を管理者から伝えてあります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	児童の送迎や、保育所等訪問支援において情報共有を行い、日々の連携が取れるように整えている。	不定期ではありますが、機会があれば挨拶等怠らないよう職員間でも気を付けております。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	0	学校へのお迎え時、先生との申し送りの中で確認を取りつつ、急な変更があった際も保護者LINEを通し調整を実施している。	先生の時間も限られていることに配慮しながら、最大限情報交換ができるように努めております。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	0	未就学児童から当法人を利用していた場合、情報共有を行い、円滑な支援に移行出来る様連携を取っている。	基本的に小学校3年生以上が対象の事業所ではあるが、必要に応じて情報共有を行うように努めております。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	0	卒業児童においても保護者からの要望があれば、会議室などを使用し、プライバシーに配慮した形で情報共有の場を設けている。	必要に応じて継続的に情報提供するよう努めております。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	0	次年度から人事関係の都合で、日常的な連携が無くなってしまいが、関係継続の為、管理者等が適宜ご挨拶に伺うなどの対応を実施している。	必要に応じて機会を設けるよう努めております。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	14	0	地域住民、他施設児童、関係者をお招きし、お祭りや運動大会などのイベント企画している。	地域交流を行う際に、開催時期や内容などのお知らせする期間を早めることで、より多くの方に参加してもらえるように努めます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	14	0	当法人の代表代理が自立支援協議会のメンバーなので、情報がその都度降りてくる。	自立支援協議会で上がってくるケースの共有は、随時職員間で確認するように努めています。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	14	0	送迎時の申し送りや、日々の活動内容を写真添付のもと公式LINEでお伝えするなど、状況の共有を積極的に行っている。	お仕事の都合で申し送り時になかなかお会いできない保護者へは、別日で面談するように連絡したり、送迎時間以外の時間設定をすることでなるべく共通理解できるように努めています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0	家族に対し、研修などは開催していないが、ペアレントトレーニング研修を受講した職員が、必要に応じ保護者へ情報提供などを実施している。	情報提供だけで終わるのではなく、その後参加したかどうかの確認や、研修内容を聞き取りするところまで気に掛けるように努めます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	0	契約時に詳細を説明している。利用開始後においても、質問があった際は適宜丁寧に答えしている。	疑問や質問に対して即時お答えできるように随時準備しておくよう努めます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	0	日々の送迎時の申し送りや、保護者からの要望があった際、家族支援などを実施し、情報の共有が出来るよう機会を設けている。	作成前と作成後、実施している期間にも定期的に児童やご家族に確認するよう努めます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14	0	児童発達支援管理責任者が保護者に対し支援内容の説明を行った上で同意を頂いている。	お仕事の都合上頻繁にお会いすることが難しい保護者に対しては、いつならお会いできるかどうかの確認をなるべく早く行い、同意を得る機会を逃さないように努めます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	家族から相談を受けた場合は、面談日を設定し、家族支援等を実施しながら、個別に対応している。	即時応えることが困難な職員へは、内容をしっかり確認して事業所に持ち帰り、職員間で共有し返答するように努めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	0	年に一度、運動大会など保護者を交えるイベントを企画し、日々の活動を実際に体験する形で、職員・保護者・子ども達の交流の機会を作っている。	保護者参加型のイベントや交流出来る機会の頻度を増やしていけるように努めます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	0	苦情に関する窓口を設置し、管理者が聞き取りを行い、職員へ共有し即時対応している。	保護者から確認されても即答できるよう、時系列や対応職員がわかるように記録することに留意します。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	0	ホームページにブログを週一回のペースで掲載し、活動内容を発信出来るようにしている。	ホームページに掲載されていることの周知徹底に努めます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	契約時、個人情報の取り扱いについて説明を行い、同意書にサイン・押印をいただいている。	撮影した記録または報告用の顔写真や活動の様子は事業所で保管し、端末上では当日で消去するように注意喚起致します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	常に相手の立場で考え、相手が不快にならないような言葉を選び、保護者への申し送りの内容についても随時配慮するよう徹底している。	障害受容されていない保護者や、地域の方へ知られたくない保護者など、特別な配慮が必要な世帯を把握することで円滑な関係が築けるように努めます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	0	年に数回、事業の敷地内において「祭り」や「運動大会」などの催しを企画し、保護者や地域住民、近隣に住む児童を招待したイベントを開催している。	実際に年に数回の開催を実施しているが、近隣住民からも好評につき、「季節ごとのイベント」や「厩に則ったイベント」など、より交流を図れる機会を作れるよう努めます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	0	各マニュアルや計画書を作成、保護者への共有も行い、地震や火災を想定した定期的な避難訓練を実施している。	避難訓練の際は臨場感を大切にし、想定外な対応をより盛り込んだ内容で避難訓練を実施し、非常時に柔軟な対応が実施出来るよう準備致します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0	地震や火災に関する避難訓練を半年に一度実施している。	地震や津波の影響で起こる様々な状況まで想定し、避難経路の確認や状況判断を踏まえた訓練をより柔軟に対応出来るよう職員と連携を取って実施出来るよう努めていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0	契約、アセスメント作成の際に状況を確認し、把握・職員間の共有に努めている。	書類作成時による一時的な共有ではなく、日々の申し送りで気づく変化や、ご家族の話を密に共有し、些細な変化も見逃す事のない連携を取れるようより努めていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0	保護者からの情報共有を元に、把握・職員間の共有を行っている。	保護者から頂く情報に加え、必要に応じてかかりつけ医院と連携し、情報共有が出来るよう体制を整えるよう努めていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	0	安全計画を作成しており、定期的に更新及び点検をしている。	緊急時の対策について、適切な内容で共有、作成がなされているかフィードバックを行い、常に最善策を講じられるよう努めていきます。

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	0	保護者LINEやBCP対策など、常時連絡が取れるよう整備しつつ、インフラが崩れた際は待ち合わせ場所などの確認を実施している。	安否確認のフロー以外にも、緊急時の危険なポイントについての周知や、身の守り方など、生存に繋がる情報も合わせて共有していきけるよう努めていきます。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	終礼の中で、その日に合った出来事を当日内で共有し、ヒヤリハットがあった際はヒヤリハット報告書を作成、法人全体で周知している。	一度起こったヒヤリハットが再発しない様、定期的な振り返りの機会を設け、職員全員が同じ意識を保てるよう努めていきます。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	市が主催する研修や本部が主催する研修等、必要に応じ参加し、研鑽に励んでいる。	希望者を優先し研修に参加しているが、事業所として必要と判断した研修については、積極的に参加していくように努めていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	1	身体拘束が必要な児童が在籍しておらず、計画書に記載していない現状。	今後、身体拘束が必要な児童（可能性がある児童）は計画書に記載し、説明した後、同意を頂いた上で契約していきます。